

データの関係を知る(1)—相関関係と因果関係

浅野 晃
関西大学総合情報学部



多変量データと多変量解析💡

変量とは

日本男性の身長は分布する
↑
分布する量を **[変量]** という

統計学は、
分布している変量から情報を引き出す
手法

「多」変量とは

2つ以上の変量の組み合わせで
表現されるデータ

「入学試験の点数」 ← 数学・英語・国語…
↑ ↑ ↑
[多変量データ] **変量** **変量** **変量**
という

多変量データを扱う統計学を
[多変量解析] という

多変量解析では

変量間の関係が問題になる

たとえば

数学の点数の高い人は 英語の点数も高い

数学の点数の高い人は 国語の点数が低い

…という傾向にある

この傾向を見つけるのが、
[相関分析]
[回帰分析]

相関関係と散布図 🤔

相関関係

2つの変量からなるデータを考える

さっきの

[正の相関関係]

数学の点数の高い人は 英語の点数も高い

数学の点数の高い人は 国語の点数が低い

[負の相関関係]

という傾向にある

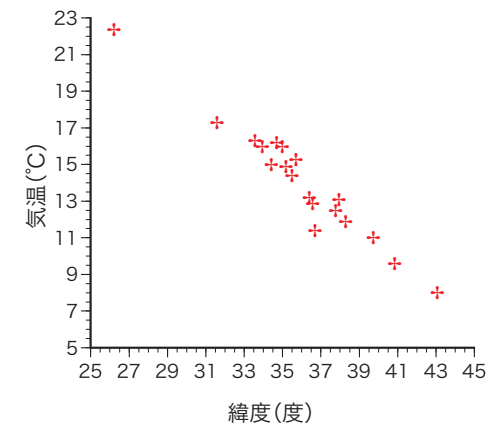
変量どうしの互いの増減の傾向
[相関関係]

散布図

多変量データを目に見えるように描く

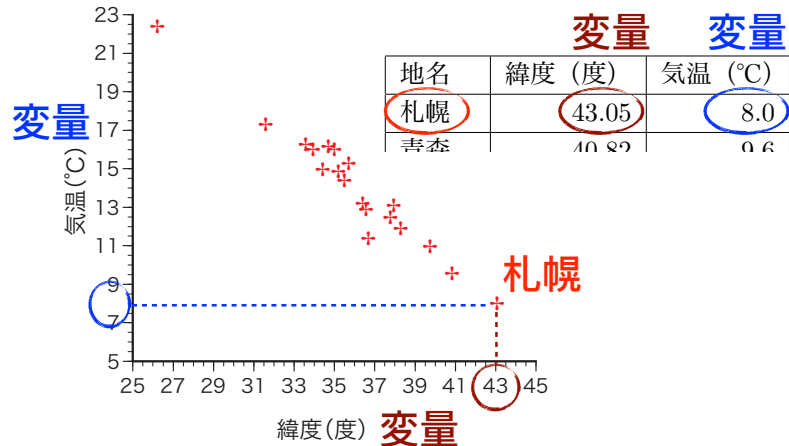
地名	緯度 (度)	気温 (°C)
札幌	43.05	8.0
青森	40.82	9.6
秋田	39.72	11.0
仙台	38.27	11.9
福島	37.75	12.5
宇都宮	36.55	12.9
水戸	36.38	13.2
東京	35.68	15.3
新潟	37.92	13.1
長野	36.67	11.4
静岡	34.97	16.0
名古屋	35.17	14.9
大阪	34.68	16.2
鳥取	35.48	14.4
広島	34.40	15.0
高知	33.55	16.3
福岡	33.92	16.0
鹿児島	31.57	17.3
那覇	26.20	22.0

表 1: 日本の都市の緯度と気温



散布図

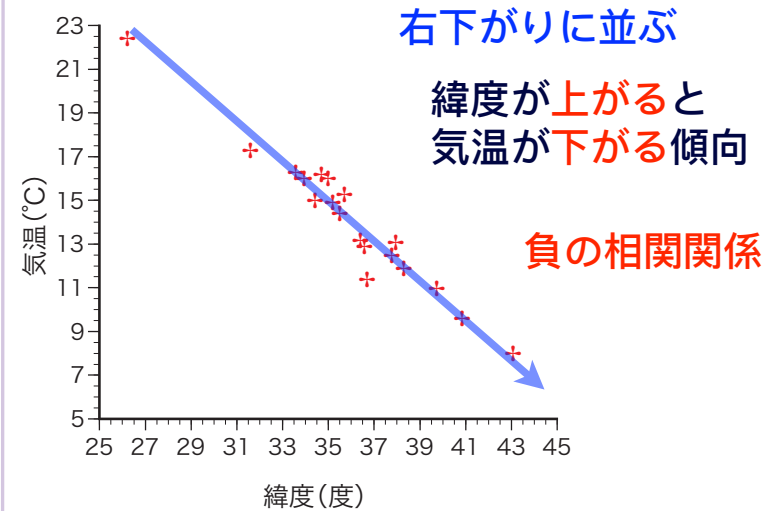
多変量データを目に見えるように描く



2019年度秋学期 統計学

9 / 37

散布図と相関関係



2019年度秋学期 統計学

10 / 37



高槻, 2018年4月3日



札幌, 2018年5月6日

相関の強弱

参考資料の散布図 (47都道府県について)

「統計学入門」(東京大学出版会)
44ページの図(さまざまな散布図の例)を示して、
相関の強弱や無相関について、
スライド2枚にわたって説明しました。

2019年度秋学期 統計学

12 / 37

相関の強弱

参考資料の散布図 (47都道府県について)

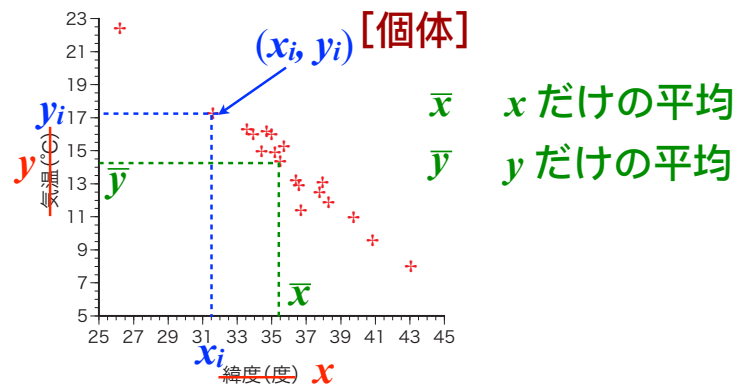
「統計学入門」(東京大学出版会)
44ページの図(さまざまな散布図の例)を示して、
相関の強弱や無相関について、
スライド2枚にわたって説明しました。

共分散と相関係数 🤔

相関係数

相関の正負・強弱を数字で表す

ここからは、緯度・気温ではなく一般的に



相関係数

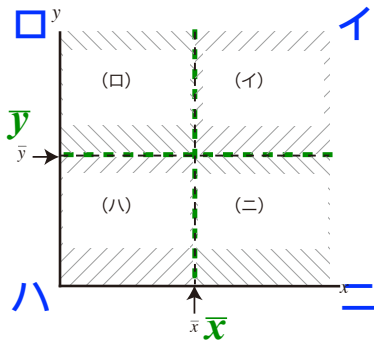
$$r_{xy} = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})/n}{\sqrt{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2/n} \sqrt{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2/n}}$$

Annotations:
- Numerator: $\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})/n$ is labeled as x, y の [共分散].
- $(x_i - \bar{x})$ is labeled as x の偏差.
- $(y_i - \bar{y})$ is labeled as y の偏差.
- Denominator: $\sqrt{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2/n}$ is labeled as x の分散 and x の標準偏差.
- $\sqrt{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2/n}$ is labeled as y の標準偏差.
- \bar{x} is labeled as x の平均.
- \bar{y} is labeled as y の平均.
- n is labeled as n はデータサイズ.

共分散の意味

x の偏差 y の偏差

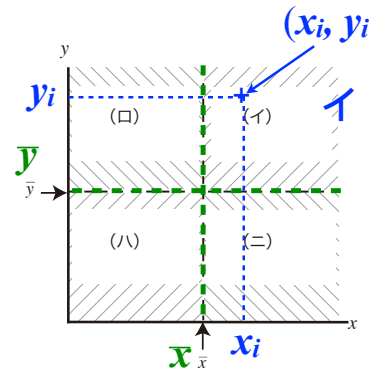
x, y の共分散 $\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) / n$



イ・ロ・ハ・ニで
 $(x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})$
 の値はどうなる？

共分散の意味

(x_i, y_i) が「イ」の領域にあるとすると



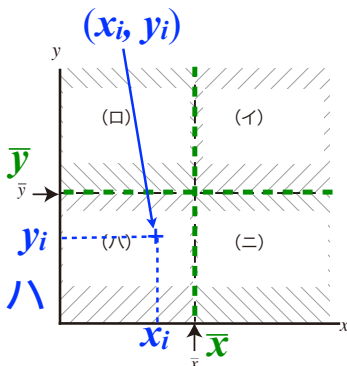
$$x_i - \bar{x} > 0$$

$$y_i - \bar{y} > 0$$

$$(x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) > 0$$

共分散の意味

(x_i, y_i) が「ハ」の領域にあるとすると



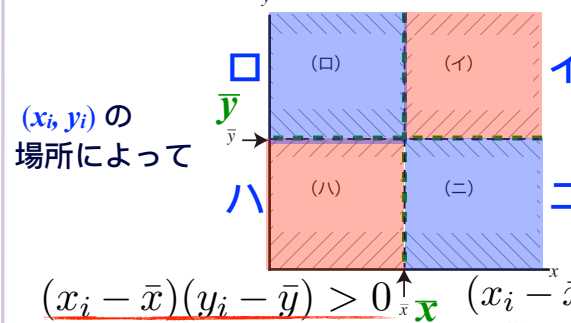
$$x_i - \bar{x} < 0$$

$$y_i - \bar{y} < 0$$

$$(x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) > 0$$

共分散の意味

$$(x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) < 0 \quad (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) > 0$$

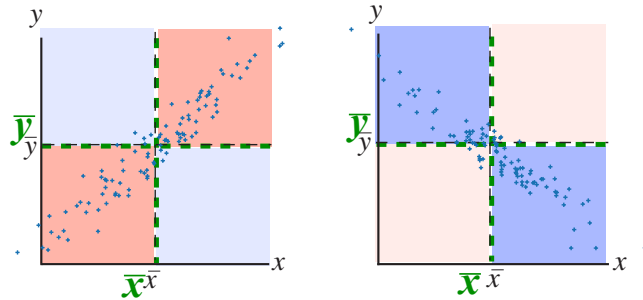


$$(x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) > 0 \quad (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) < 0$$

(x_i, y_i) が (\bar{x}, \bar{y}) から離れているほど、
 絶対値が大きくなる

共分散の意味

$$\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})/n \text{ は}$$

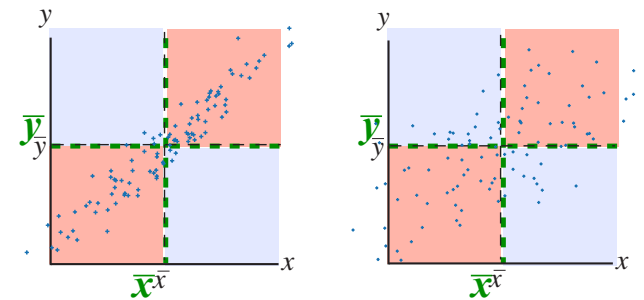


正で大きな値
→強い正の相関

負で絶対値が大きい
→強い負の相関

共分散の意味

$$\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})/n \text{ は}$$

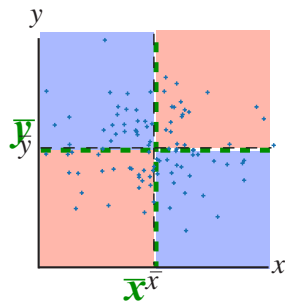


正で大きな値
→強い正の相関

正だが大きくない
→弱い正の相関

共分散の意味

$$\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})/n \text{ は}$$

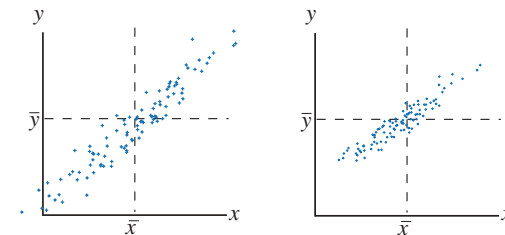


差し引きゼロ
→無相関

共分散と相関係数

相関係数 = 共分散

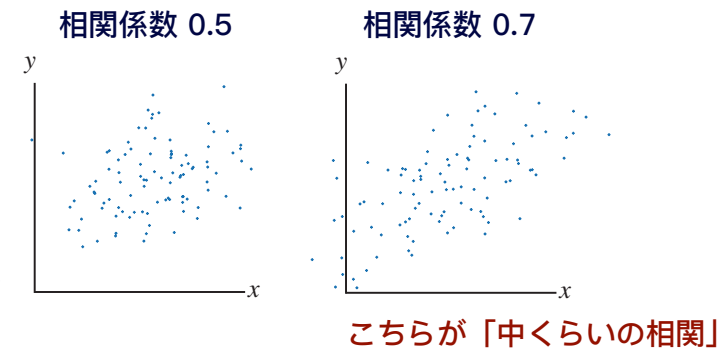
÷ (xの標準偏差 × yの標準偏差)



これらの相関の強さは同じ
→標準偏差で割って調整する

相関係数は
-1~0~1

中くらいの相関



なぜこうなるのかは、次回説明します

ちょっと問題🤔

問題 1

国民所得と酒の消費量の間には**正の相関**がある。だから、**国民が酒をたくさん飲めば所得が増える。** 🍷

相関関係と因果関係は異なる。

問題 2

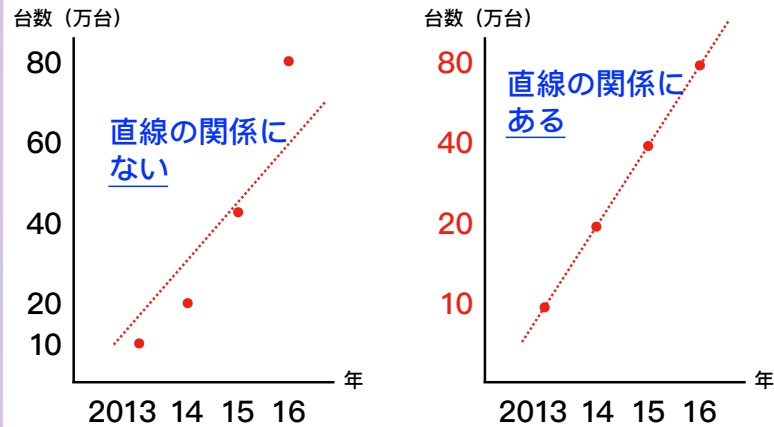
ある電気製品の普及台数は、発売以来**毎年倍**に増えている。**発売後の年数と普及台数の相関係数は、非常に強い相関**であるから、**ほぼ1**である。

直線状の関係ではないから、相関係数が1にはならない

問題 2

「毎年倍になっている」

対数目盛りに変える
(1目盛 = 「2倍」)

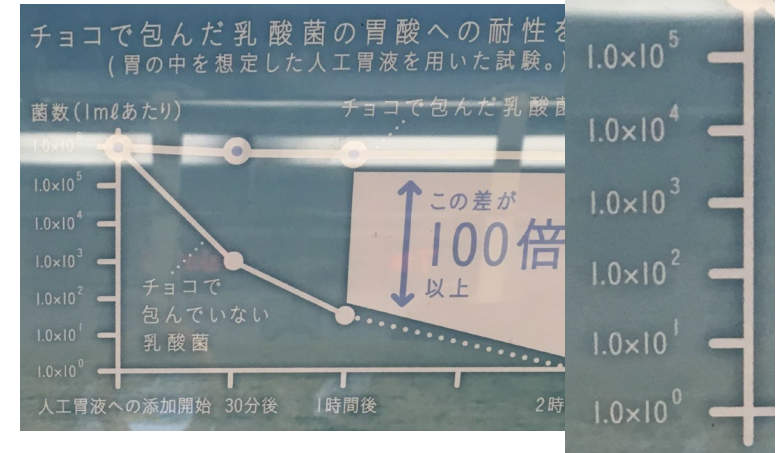


2019年度秋学期 統計学

29 / 37

問題 2

対数目盛の例 (電車内の広告)



A. Asano, Kansai Univ.

2019年度秋学期 統計学

30 / 37

みかけ上の相関 🤔

A. Asano, Kansai Univ.

みかけ上の相関

小学生については、身体が大きいと
試験の成績が良い

???

全学年の児童に同じ問題で試験をすれば。

「体格」と「成績」には正の相関関係

なぜ？

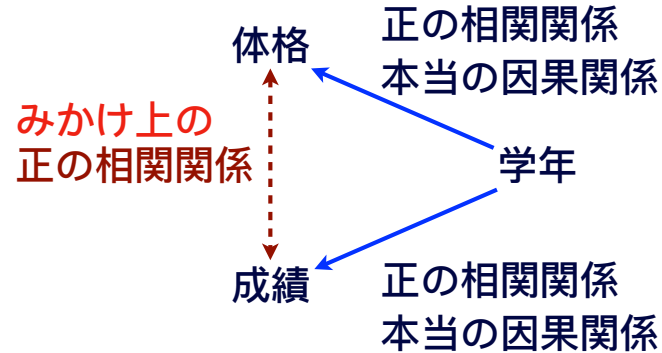
A. Asano, Kansai Univ.

2019年度秋学期 統計学

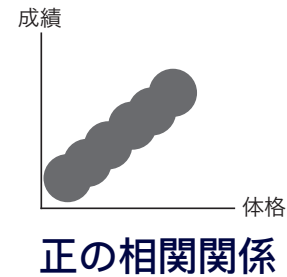
32 / 37

みかけ上の相関

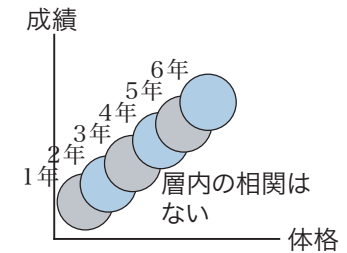
なぜ？



層別

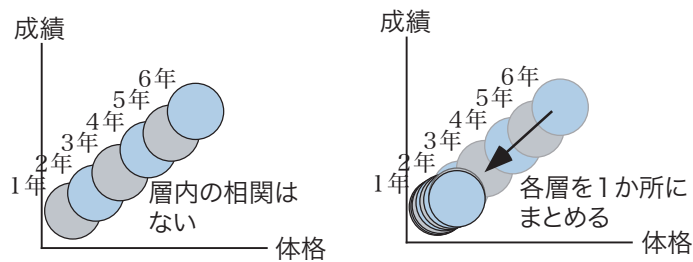


実は



内部に「学年」の層がある

層別



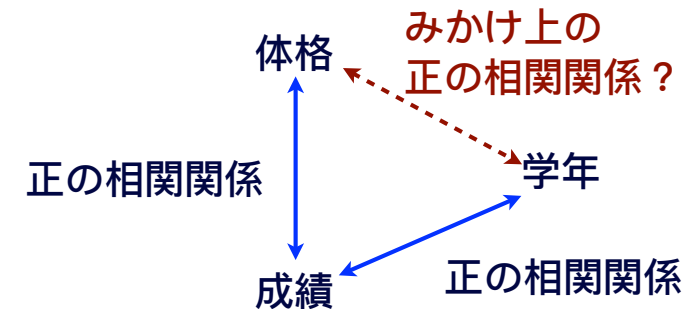
内部に「学年」の層がある

層に分けて、ひとつにまとめる

学年の影響を除いた [偏相関係数]

ところで

こうはならないの？



統計学の上では、こう考えても同じ
ならないのは、統計学以外の知識による

「みかけ上の」とは？

「嘘の相関」ではない
相関関係は本当にある

